

## 1 . ロシアとの対話が事態打開のカギ

25 July 2022

East Asia Forum

**ロシアとの対話が事態打開のカギ**

Talking with Russia key to plight of global poor

[https://www.eastasiaforum.org/2022/07/25/  
talking-with-russia-key-to-plight-of-global-poor/](https://www.eastasiaforum.org/2022/07/25/talking-with-russia-key-to-plight-of-global-poor/)

Kishore Mahbubani

### リード

欧米諸国の国民は怒っている。社会を正しい方向に導くはずの政治エリートが、ウクライナに関しては間違った方向に導いているのだ。より賢明な行動指針があるはずだ。

### 本文

#### 1 . 単純な行動の原則

この賢明な行動指針は、単純な原則に基づいている。

**「完璧なことは良いことの敵である」**

( The perfect is the enemy of the good )

G7 諸国は、自国民がより幸福になるような “不完全な解決策” を受け入れるべきである。それは、自国のみならず、食料とエネルギー価格の上昇に苦しんでいる第三世界の何十億という貧しい人々をも助けることになる。世界人

口の下位 10%、20%の貧しい人々の苦しみに道徳的な優先順位を与えなければならない。

アメリカの偉大な政治哲学者ジョン・ロールズは、最も公正な社会とは、下位 10%の人々に配慮した社会であると強調した。

彼の代表作である『正義論』の中で述べられているように、社会的・経済的不平等が存在する下で、正義の原則に合意するためには、その正義が「社会で最も恵まれない人々の最大の利益となる」ものでなければならないのである。

## 2 . いま世界の貧困層が苦しんでいる 3 つの理由

今日、世界の貧困層が苦しんでいる理由は、主に次の 3 つである。

### コロナに対する財政出動

まず、COVID-19 後の大規模な景気刺激策、特に米国の財政出動が世界的なインフレを解き放った。

フィナンシャル・タイムズのエコノミスト、マーティン・ウルフは、最近の記事でこう書いている。「2020 年と 2021 年に実施された財政政策と金融政策の組み合わせが、インフレの火種となった」

### ウクライナ戦争の影響

ついで、ロシアの違法なウクライナ侵攻と、それに続くロシアへの大規模な制裁が、エネルギーと食糧の価格を大きく上昇させた。

EU は、一方で制裁を行いながら、他方でロシアの石油とガスに対して巨額の金額を支払い続けている。2022 年 2 月 24 日の開戦以来、ヨーロッパはロシアの石油とガスのために 600 億米ドル以上を支払った。そうしておきながら、インドと中国がロシアの石油を買いすぎていると文句を言う。

だから、インドの外相、スブラマニヤム・ジャイシャンカーの今では有名となった「一言」が生まれた。

「我々の1カ月の購入総額は、ヨーロッパが1日の午後に行う量よりも少ないだろう」

### 中国のゼロコロナ政策

第三の理由が中国のオミクロン株流行だ。

今年初め、オミクロン株は中国のゼロコロナ政策の防御壁を突破した。これにより、2022年3月以降、上海の閉鎖を含む大規模なシャットダウンが発生した。

中国は世界の工場であるため、世界的なインフレにも影響している。

### 3. 合理的な対応とはどういうことか？

「完璧な解決策」を見つけること？ それとも、不完全ではあっても、ウクライナや世界の多くの人々、とくに貧しい人々の苦しみを軽減する解決策を受け入れること？

西側諸国は「完璧な解決策」を求めている。世界の他の国々は、不完全な解決策であろうとも、人々の苦しみを減らすことを望んでいる。

ところで「完璧な解決策」とは何か。それは、西側諸国がウクライナで追求しているものである。すなわちウクライナからロシア軍を全面撤退させることだ。

いわば無条件降伏だ。そのためには妥協はしない。

それは「完璧な勝利」だ。もし西側がこれを達成できるのであれば、それを目指すべきだ。しかし、ウクライナでこの完璧な解決策を達成する見込みはゼロだ。

#### 4 . ウクライナでの戦争の経済への影響

世界貿易機関 (WTO) のンゴジ・オコンジョ・イウェアラ事務局長は次のように述べている。

ウクライナでの戦争は計り知れない人的被害をもたらしたが、重要な局面で世界経済にもダメージを与えた。

その影響は世界中で、特に家計支出の大部分を食糧が占める低所得国において顕著に現れるだろう。...

食料の供給が少なくなり、価格が上昇するということは、世界の貧困層が食料不足を余儀なくされる可能性があるということだ。

#### 5 . ウクライナにとっての「不完全な解決策」

では、ウクライナにとって「不完全な解決策」とは何だろうか。

まず第一に、ロシアに即時停戦を求めることだ。

戦争はいまなお続いている、毎日何百人もが亡くなっている。このままでは穀物を生産する人がいなくなる。

2023年にウクライナの農民が再び作付けを開始し、世界を養うようになるためには、2022年中にそのための肥料を手に入れる必要がある。2023年に食料が増えれば、世界の貧困層の苦しみも減るだろう。

第二のステップは、ロシアとの対話を始めることである。

協議は2段階に分けて行う必要がある。1つめの協議はウクライナとロシアの間で。もう一つの協議は、西側諸国とロシアとの間でおこなわれる。

協議を開始すれば、ウクライナ人の命が救われ、全世界が安堵のため息をつくだろう。

それからが大変だ。

ウクライナをめぐる欧米とロシアの立場には大きな隔たりがある。だから、すぐに長期的な解決がもたらされることはないだろう。

しかし、話し合いが始まれば、特に世界の多くの国々がロシアと率直に話し合うことができれば、それだけ解決する可能性が高くなる。

## 6 . 1 1 月 G20 会議の見通し

11月15-16日にG20会議が開催される。そのホスト国であるインドネシアは、ロシアのプーチン大統領を会議に招待するつもりでいる。これを妨害するのは、欧米にとって大きな戦略的ミスである。

より強硬に、「もしプーチンが出席するならば、西側諸国はG20サミットをボイコットする」と主張するのは、さらに大きな間違いであろう。

欧米の指導者が毎晩寝る前に暗記し、繰り返すべき統計がある。

それは「西側諸国は世界人口の12%を占めるに過ぎない」という事実だ。

もしプーチンが2022年11月にジャカルタを訪れれば、当然のように西側の意見も聞かざらうし、それ以外の意見も聞かざらう。

ロシアと欧米の間には信頼関係がゼロなので、プーチンは欧米の意見に耳を傾けることはないだろう。

しかし、彼は残りの国々の意見には耳を傾けるだろう。だから、西側諸国はプーチンを招待しないように要求することで、自らの足をピン止めしてようなものだ。

欧米がプーチンの排除を推し進めるのは、ロシアを打ち負かす「完璧な解決策」を推し進めるためである。

しかし、それは決して実現しない解決策だ。

欧米はインドネシアやG20の非欧米メンバーの意見に耳を傾け、何らかの妥協的な解決策を見出すよう努力すべきである。

そのような解決策は、ウクライナ人の命を救い、世界の何億という貧しい人々の苦しみを軽減することになる。

要するに、現実的な解決策は倫理的な解決策でもあるのだ。

.....

.....

キショア・マフブバニ ( Kishore Mahbubani ) は元外交官、シンガポール国立大学アジア研究所の特別研究員。 *Kishore Mahbubani, a veteran diplomat, is a distinguished fellow at the Asia Research Institute at the National University of Singapore. This is a digest of a longer article longer article published in the [Straits Times](#).*